

発表場所:国土交通記者会(資料配付)
 国土交通省建設専門紙記者会(資料配付)
 国土交通省交通運輸記者会(資料配付)
 筑波研究学園都市記者会(資料配付)
 長野県庁内会見場(資料配付)
 岐阜県政記者クラブ(資料配付)
 発表日時:令和6年6月13日(木)14時



令和6年6月13日
 国土交通省国土地理院

火山の成り立ちがわかる火山土地条件図「焼岳」を公開

～火山災害の予測や火山域の土砂災害リスク把握に役立ちます～

国土地理院では、長野県と岐阜県にまたがる「焼岳」(やけど)において、火山地域の地形の成り立ちを表し、火山災害リスクの把握等に役立つ火山土地条件図を整備し、令和6年6月14日から公開します。

国土地理院では、自然条件に即した効果的な防災対策や土地利用計画等に寄与することを目的に、様々な主題図^{※1}を整備してきました。その一環として、火山災害による被害の軽減、地域における防災計画の基礎情報を提供することを目的とし、活火山を対象に、火山防災のために監視・観測体制の充実等が必要とされる火山(51火山^{※2})を優先して、火山の地形分類等を表示した縮尺1/10,000～1/50,000の火山土地条件図を整備し、提供しています(資料1)。

令和5年度に焼岳の調査を開始し、関係機関や有識者の協力を得ながら、縮尺1/25,000の火山土地条件図「焼岳」(A2判)を整備しました(資料2-1、2-2)。この焼岳を含めると、火山土地条件図は現在(令和6年6月)までに30火山で整備・公開されることとなります(資料3)。

火山土地条件図には、過去の火山活動によって形成された地形や噴出物(溶岩流や火砕流等)の分布、その後の風雨や流水等による侵食作用により形成された地形(崩壊地や土砂堆積地等)がわかりやすく表示されています。そのため、火山噴火に伴う災害の予測や災害対策立案に活用されるほか、火山域における豪雨や地震に伴う土砂災害リスクの評価等の火山砂防にも貢献する有用な情報であり、防災意識を高めていただく一助になればと考えています。

火山土地条件図は、国土地理院のウェブ地図「地理院地図」で閲覧できるほか、ウェブサイト^{※3}から画像データなどをダウンロードすることができます。また、有償のインクジェット出力図は(一財)日本地図センターから入手できます。

※1 国土地理院がこれまで整備した主題図は、右記URLを参照ください。<<https://www.gsi.go.jp/kikaku/>>

※2 我が国にある111の活火山のうち、火山噴火予知連絡会によって「火山防災のために監視・観測体制の充実等の必要がある火山」として選定された51火山。

※3 火山の地図のウェブサイト <<https://www.gsi.go.jp/bousaichiri/volcano-maps.html>>



【添付資料】

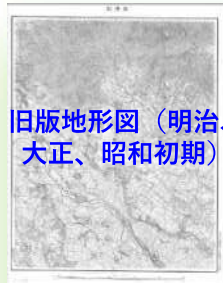
- ・資料1 火山土地条件図の概要
- ・資料2-1 1:25,000 火山土地条件図「焼岳」
- ・資料2-2 1:25,000 火山土地条件図「焼岳」鳥瞰図
- ・資料3 火山土地条件図の整備・公開状況

(問い合わせ先)

〒305-0811 茨城県つくば市北郷1番

国土地理院 応用地理部 地理調査課 課長 山田 美隆 TEL:029-864-5934 (直通)
 地理調査課 課長補佐 中埜 貴元 TEL:029-864-5936 (直通)

- 火山土地条件図は、過去の火山活動により形成された地形や噴出物(溶岩流、火砕流、スコリア丘等)の分布、噴火後の侵食地形や堆積地形(崩壊、地すべり、岩屑なだれ堆積地、火山麓扇状地等)などを表示した、縮尺1/10,000~1/50,000の火山に特化した地形分類図。
- 1988(昭和63)年7月の測地学審議会(当時)の第四次火山噴火予知計画の建議において、火山活動に伴う防災計画、土地保全計画等のための基礎資料として火山土地条件図が位置付けられ、整備を開始。
- 活火山を対象に、火山防災のために監視・観測体制の充実等が必要とされる51火山を優先して整備。
- 火山災害の予測や防災対策立案、土砂災害等の火山砂防計画等に利用されているほか、各種調査・研究、教育のための基礎資料や地域・郷土の理解を深めるための資料としても活用できる。



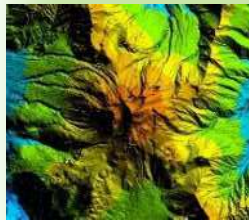
旧版地形図(明治、大正、昭和初期)

旧版地図



米軍写真など(1940年代)

空中写真



高精度地形データ



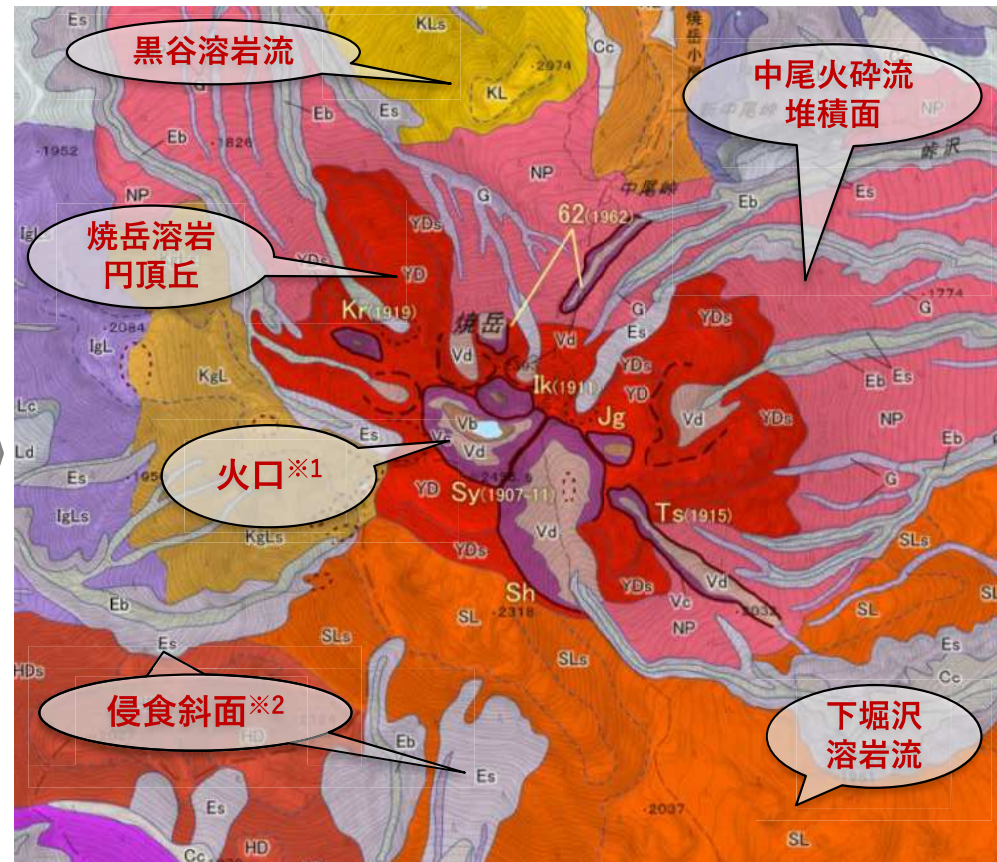
空中写真等の判読作業



現地調査



検討委員会

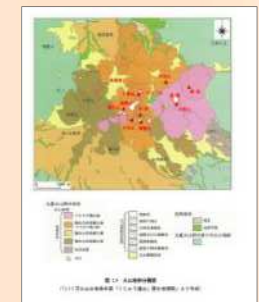


火山土地条件図「焼岳」の一部

火山防災協議会等での議論における活用



火山防災計画策定等における活用

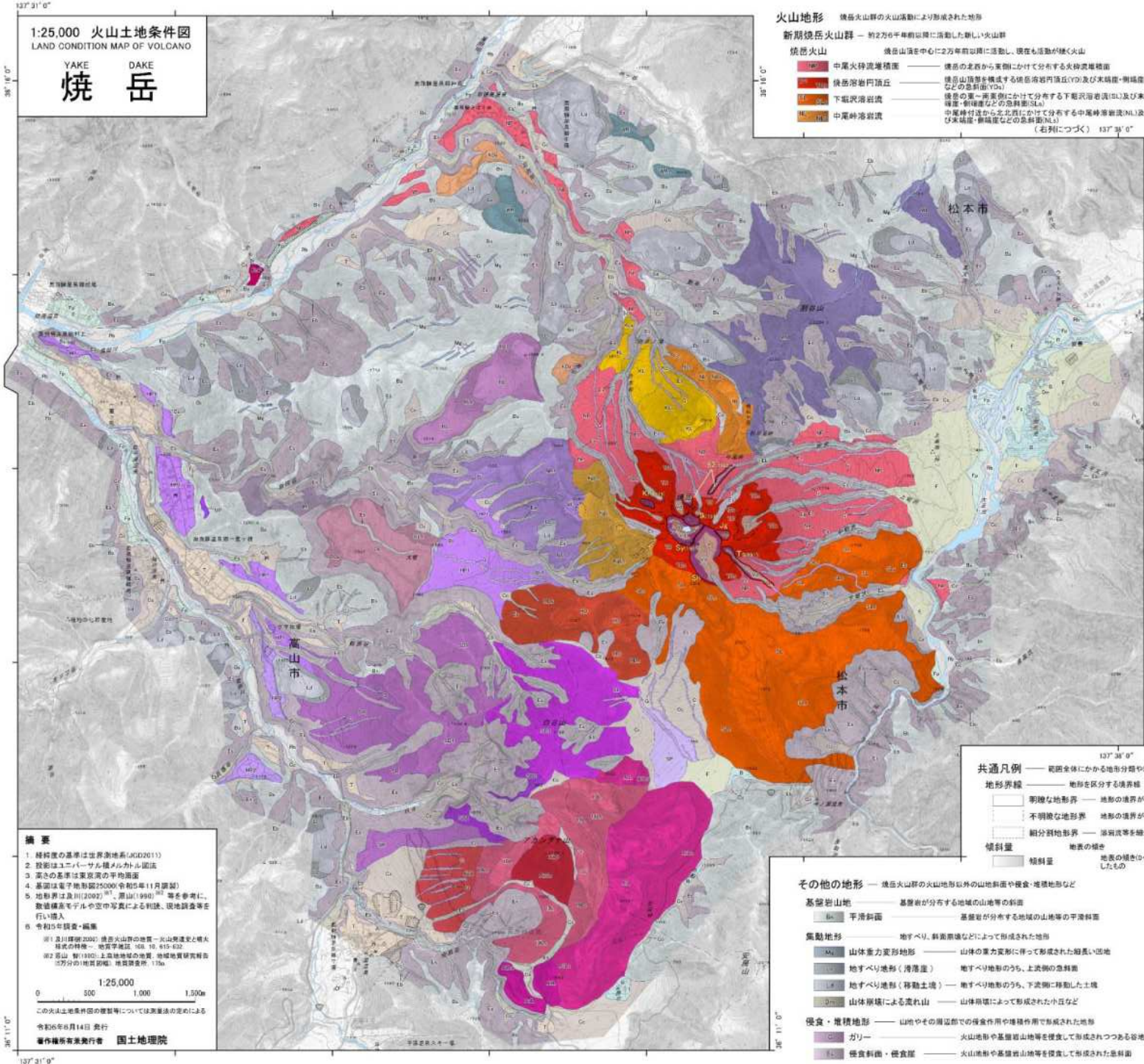


九重山火山噴火緊急減災対策砂防計画(大分県)

※1: 噴火時の噴出口となるリスク高

※2: 噴火、豪雨、地震時の崩壊リスク高

1:25,000火山土地条件图「烧岳」



1:25,000 火山土地条件图
LAND CONDITION MAP OF VOLCANO
YAKE DAKE
烧岳

火山地形

烧岳火山群の火山活動により形成された地形

新期烧岳火山群

約2万6千年前以降に活動した新しい火山群

烧岳火山

烧岳山頂を中心として2万年前以降に活動し、現在も活動が継続する火山

中尾火砕流堆積扇	烧岳の北西から東側にかけて分布する火砕流堆積扇
烧岳溶岩円頂丘	烧岳山頂を構成する烧岳溶岩円頂丘(YD)及び末峰崖・側峰崖などの急斜面(YD)
下尾沢溶岩流	烧岳の東一帯東側にかけて分布する下尾沢溶岩流(SL)及び末峰崖・側峰崖などの急斜面(SL)
中尾沖溶岩流	中尾沖付近から北北西にかけ分布する中尾沖溶岩流(ML)及び末峰崖・側峰崖などの急斜面(ML)

(右列につづく)

(左列につづく)

焼岳溶岩円頂丘	烧岳の南西側に位置する焼岳溶岩円頂丘(HD)及び末峰崖・側峰崖などの急斜面(HD)
黒岩溶岩なだれ堆積扇	中尾火砕流堆積扇より高所に位置する黒岩なだれ堆積扇
黒岩溶岩流	中尾沖の北西側に分布する黒岩溶岩流(ML)及び末峰崖・側峰崖などの急斜面(ML)
小糸谷火砕流堆積扇	黒岩川沿いの小糸谷の谷口付近にみられる火砕流堆積扇
黒岩源溶岩流	烧岳山頂の西一帯西側に位置する黒岩源溶岩流(SL)及び末峰崖・側峰崖などの急斜面(SL)

火山口

烧岳山頂周辺に分布する火山口や関連する地形

明確な火山口線	山頂付近の火山口のうしろ形状が明確な火山口の外縁
不明瞭な火山口線	山頂付近の火山口のうしろ形状が不明瞭な火山口の外縁
推定火山口の火山口線	火山口の可能性がある凹地や低地の高まりの外縁
火山口略記号と形成年等	山頂付近の主要な火山口に付加した略記号と形成年や活動年

62: 1962年火山口	Sy: 正黄南山頂火山口(1907~1911年活動)
6: 黒岩火山口(1919年形成)	Sc: 黒岩山頂火山口
Ts: 大正池火山口(1919年形成)	Lc: 焼岳山頂火山口
1k: 遠見穴火山口(1911年形成)	Sh: 下尾火山口

火山口壁	火山口の内側に形成された急崖
火山口内の砕岩堆積斜面	火山口から噴出した砕岩堆積物や火山口の崖壁堆積物等からなる斜面
火山口底	火山口の内部に形成された平坦地

アカンダナ火山

アカンダナ山を中心とする約1万年前後に活動した火山

アカンダナ溶岩円頂丘	アカンダナ山の主峰を中心としたアカンダナ溶岩円頂丘(AIK)及び末峰崖・側峰崖などの急斜面(AIK)
安房沖溶岩流	アカンダナ山の東側の安房沖溶岩流(AIL)及び末峰崖・側峰崖などの急斜面(AIL)
安房溶岩流	1300m溶岩流の南側に位置する安房溶岩流(AIL)及び末峰崖・側峰崖などの急斜面(AIL)
アカンダナ火砕流堆積扇	アカンダナ山の西側山麓部に分布する火砕流堆積扇
1909m 溶岩流	アカンダナ火山の活動初期に噴出した1909m溶岩流(19L)及び末峰崖・側峰崖などの急斜面(19L)

白谷山火山

白谷山を中心とする新期烧岳火山群の中で古い火山

平瀬川火砕流堆積扇Ⅰ	主に白谷山の西側に分布する火砕流堆積扇(焼岳の西)
平瀬川火砕流堆積扇Ⅱ	主に白谷山の西側に分布する火砕流堆積扇(高台位置)
上地ヶ根火砕流堆積扇	上地ヶ根集落の東側にみられる火砕流堆積扇
白谷山山麓部の火砕流堆積扇(焼岳)	白谷山の東側に分布する火砕流堆積扇と推定される堆積扇
白谷山火砕岩堆積斜面	白谷山の南一帯西側に広く分布する火砕岩堆積斜面
白谷山溶岩円頂丘Ⅰ	白谷山山頂付近に分布する白谷山溶岩円頂丘により形成された溶岩円頂丘の平瀬急斜面
白谷山溶岩円頂丘Ⅱ	白谷山山頂の南西側に分布する白谷山溶岩円頂丘Ⅱにより形成された溶岩円頂丘の平瀬急斜面
白谷山溶岩円頂丘Ⅲ	白谷山山頂の南側に分布する白谷山溶岩円頂丘Ⅲにより形成された溶岩円頂丘の平瀬急斜面

旧期烧岳火山群

約12万年前から約7万年前にかけて活動した火山群

割谷山火山

約7万年前に活動した火山群

岩坪谷溶岩流	岩坪谷上流右岸に分布する溶岩円頂丘状の岩坪谷溶岩流(高L)及び末峰崖・側峰崖などの急斜面(高L)
割谷山火砕岩堆積斜面	足波谷の北西側の溶岩円頂丘にみられる火砕岩堆積斜面
割谷山溶岩流	割谷山とその周辺に分布する溶岩流の平瀬急斜面

岩坪山火山

約9万年前に活動した火山群

岩坪山溶岩流	岩坪谷溶岩流の北側に位置する台地地形を呈する岩坪山溶岩流(L)及び末峰崖・側峰崖などの急斜面(ML)
--------	--

大相火山

約12万年前に活動した火山群

大相溶岩流	烧岳火山の西側に位置する大相溶岩流(O)及び末峰崖・側峰崖などの急斜面(O)
岩坪谷火砕岩堆積斜面	岩坪谷流域でみられる火砕岩堆積斜面

共通凡例

範囲全体にかかる地形分類や地形表現	(共通凡例のつづく)	
地形分類	河川・湖沼	
地形を区分する境界線	水部	
明確な地形境界	地形の境界がはっきりしているもの	現在の水産(地形図等に示された水産)
不明瞭な地形境界	地形の境界がはっきりしていないもの	人工改変地形
細分地形境界	派流線等を細分する境界線	切土地
傾斜量	地表の傾き	墾土地
傾斜量	地表の傾き(0~30°)をグラデーションで表現したもの	

その他の地形

烧岳火山群の火山地形以外の山地斜面や侵食・堆積地形など

基岩山地	基岩が分布する地域の山地等の斜面	(侵食・堆積地形のつづく)
平瀬斜面	基岩が分布する地域の山地等の平瀬斜面	侵食谷
集積地形	地すべり・崩壊面などによって形成された地形	山麓堆積地形
山体力学変形地形	山体の力学変形に伴って形成された崩壊・凹地	河成地形
地すべり地形(持降)	地すべり地形のうち、上流側の急斜面	台地・段丘
地すべり地形(移動土塊)	地すべり地形のうち、下流側にもとに凹地堆積した崩壊した土塊	扇状地
山体崩壊による流れ山	山体崩壊によって形成された小丘など	沼澤平地・谷底平地
侵食・堆積地形	山地やその周辺部での侵食作用や堆積作用で形成された地形	渾地
ガリ	火山地形や基岩山地等を侵食して形成された谷地形	旧河道
侵食斜面・侵食崖	火山地形や基岩山地等を侵食して形成された急斜面	河川敷・浜

概要

1. 緯経度の基準は世界測地系(JGD2011)
2. 投影はユニバーサル横メルカトル国法
3. 高さの基準は東京湾の平均海面
4. 基礎は電子地形図25000(令和5年11月更新)
5. 地形界は及川(2002)¹⁾、源山(1990)²⁾等を参考に、数値標高モデルや空中写真による判読、現地調査等を行い補入
6. 令和5年版調査・編纂

注1) 及川(2002) 烧岳火山群の地質—北山集落と大規模の地形—地質学雑誌, 168, 10, 615-622
 注2) 源山, 野(1990) 上尾地帯の地質, 地質地理学報告, 17(2)の地質調査, 地質学雑誌, 176

1:25,000
 0 500 1,000 1,500m
 この火山土地条件図の製図等については測量法の定めによる
 令和5年6月14日発行
 著作権所有発行 国土地理院

51火山中 30火山 公開済

黒字: 公開済火山
赤字: 今回公開する火山
灰字: 未整備火山

火山土地条件図の
ウェブサイト

